



卒業を祝して

歯学部長 前田 健康

歯学科第53期生の皆さん、口腔生命福祉学科第16期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本日でたくご卒業される皆さんに、歯学部教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。また、卒業の日を一日千秋の思いで待ち焦がれていたご家族、保護者の皆様方のご尽力にも敬意を表するとともに、今日の卒業式を無事に迎えることができましたことを心よりお祝い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症に対するさまざまな対策が取られる中、本学歯学部教育の総仕上げといえる臨床実習、現場実習を終了し、卒業生の皆さんは、本日、学士の称号を与えられました。卒業生の皆さんは、この春から、歯科臨床研修医、歯科衛生士、福祉職、行政職、大学院への進学等、さまざまな道に進まれます。各人の進む道は異なるものの、歯科医学・医療、口腔保健・福祉に携わり、国民の健康の維持・増進に寄与するという皆さんの目標は同一であると思います。

VUCAという言葉を知っているでしょうか？VUCAはvolatility（変動性）、uncertainty（不確実性）、complexity（複雑性）、ambiguity（曖昧性）の頭文字をとった造語で、先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態を意味します。現代は技術革新、テクノロジーの進化により、あらゆるものを取り巻く複雑性を増し、将来の予測が困難な状況となっています。VUCAは、元来、軍事用語としてできた用語ですが、昨今の社会情勢が激しく変化し先行き不透明な社会情勢を指して、使われるようになりました。このVUCA時代には、想定外のこと（例えば新型コロナウイルスの流行や地球温暖化に伴う気候変動や異常気象

など）が次々に起きる、今までの常識が非常識になる、業界の概念を覆すサービス（例えばUber）の登場が起こってきています（村尾佳子：グローバル経営大学院教授副研究科長）。すなわち、VUCA時代は「今まで通りの延長線ではない時代」であることを意識して、活動していくことが求められます。村尾氏は、テクノロジーの理解と情報収集力、自らの頭で考える力、ポータブルスキルがVUCA時代の人材に必要な3つのスキルであると述べています。歯科医療、保健・福祉の世界でもデジタル化が急速に進んでいます。AIが急速に進化し、さまざまな職業がAIやロボットに代替されると考えられており、私たちは我々にしかできない考える力を高めていく必要があります。ポータブルスキルは特定の業種や職種、時代背景にとらわれることのない汎用性の高いスキルのことで、これはどの分野でも必要とされる市場価値の高い人材をいいます。VUCAの時代は曖昧な物事や未知の事象に意味付けをし、自身で答えを出す動き方やマインドセットするスキルが求められています（https://next.rikunabi.com/journal/20211014_t01/）。

総務省統計局によれば、我が国の総人口（2022年9月15日現在推計）は、前年に比べ82万人減少している一方、65歳以上の高齢者人口は、3627万人と、前年（3621万人）に比べ6万人増加し、過去最多となりました。また75歳以上人口（後期高齢者）の割合は15.5%（0.6ポイント増）、80歳以上人口も9.9%（0.7ポイント増）にも達しています。このような人口構造が変化するとともに社会構造も変化し、医療に求められる社会ニーズも大

大きく変化しています。今までの歯科医療も健常者型から高齢者型へ大きく転換することが予測され、またデジタル機器の活用やビックデータに基づく医療の実践などが求められ、歯学教育もまた大きく変わりつつあります。このため、文部科学省では歯学教育モデル・コア・カリキュラムを大幅に改訂し、令和6年度入学生から新たなカリキュラムで教育が始まります。皆さんが新潟大学歯学部で4ないし6年間で学んだことは、今この時代の医療技術、社会ニーズをベースとした教育プログラムに基づいたものです。この先、技術革新、社会構造の変化が進めば、その時代に求められるスキルや知識も当然変わっていきます。「大学卒業＝学びのステージの終了」ではありません。この先も学び、社会人としての成長と進化を続けましょう。変化し続ける社会ニーズを敏感にキャッチし、それに応えられる社会人であり続けましょう。

社会は口腔医療・保健・福祉のプロフェッショナルとなる皆さんに対して、常に幅広い教養、豊かな感性、きびしい倫理感を求め続けます。また、社会は専門的知識やスキルを維持・向上させる責任も求めるため、皆さんにはさらに一層の常日頃の精進が不可欠となります。皆さんが社会か

ら認められるためには、今日この日に、改めてこれからの長い人生に向けて新たな目標を設定しましょう。歯科医療・口腔保健従事者という職業を真摯に受けとめながら、プロとしての自信と勇気を持って、社会に対して積極的に貢献することを目指してください。学而不思則罔（くわ）（学んで思わなければ則ち罔し：人から学んだだけで、自分で考えることをしないと、何もはっきりとはわからない）です。

本日、新たな夢を胸にスタートラインに立つ皆さんを、我々教職員一同はこれからも熱意を持って、応援していきたいと思います。卒業する皆さんには、折を見て母校を訪ね、また生涯の学習の場として、これからも新潟大学歯学部を積極的に活用していただけるように願っています。皆さんが今日巣立っていく新潟大学歯学部は競争が激化している歯科界の中で、高い評価を受けています。すばらしい教育資源を有しています。我々教職員は皆さんに対し、これからの社会で勝ち抜くために必要な考え方、知識、技能を授けてきたと自負しています。新潟大学歯学部を卒業したという誇りを持ち、活躍して下さい。皆さんの今後の活躍を大いに期待してします。



卒業を祝して

医歯学総合病院 副院長（歯科総括） 多部田 康 一

歯学科53期生・口腔生命福祉学科16期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。長い間の努力を経て新潟大学歯学部の教育課程を修了し、学士の学位を取得された皆さん、そして卒業生を支えてこられたご家族、ご親族の皆様にお心からお祝い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の蔓延により皆さんの学習や大学生らしい日常生活においても様々に大変な不自由が強いられました。現在もその影響は続きますが、2019年当初の未知なる感染症の脅威に対して感じた不安は和らぎつつあります。歯科治療は口腔からのエアロゾルを発生させる処置が多く、新型コロナウイルス感染症に対して高いリスクが懸念されましたが、十分な問診と標準予防策を講ずることでリスク低減を図ることができることを学びました。実際に現場で危機感を持ちながら臨床実習に臨んだ皆さんにとっても、標準予防策の重要性を直接的に認識する有益な学びの機会となったと思います。このように現場で経験をすることは実学として何よりも重要です。これまで歯科医学、口腔保健医療・福祉を学び、今、専門的職業人として社会で活躍するスタートラインに立った皆さんは、これまで大学においては、不変的に重要な知識や基本的技能の習得を中心と

して学んできました。これからさらに現場で学び、経験しながら、成熟したプロフェッショナル職業人へと成長してゆかなくてはなりません。優れた良き医療人として活躍し、社会に貢献してゆくために、自己研鑽を継続する努力を怠らないでください。

現存の医療技術や医療・社会福祉のシステムにおいて、皆さんがそれぞれの環境で専門職業人として働く社会貢献に加えて、時代の変化に合わせてさらなる改善と発展を求めめることも目指していただきたいと思います。若い皆さんの積極的なチャレンジ、既存概念にとらわれない発想や多様な個性の発揮には自身の成長だけでなく、社会におけるイノベーションの創出を生み出す可能性があります。新潟大学歯学部を卒業した学士として高い志を持ってください。

今、卒業した皆さんは将来どのように働いてゆか、これまで試験の準備に忙しく考える時間もあまり無かったかもしれません。是非、おおよそ5年後、10年後と具体的に目標を定めてください。目標達成による自己実現を行いながら、医療・社会福祉に関わり社会へ貢献してゆかれることを期待します。新潟大学歯学部・医歯学総合病院教職員一同は、皆さんを応援しています。

卒業生から

卒業生から

歯学科6年 佐藤大地

新潟大学での大学生活も、いよいよ卒業が目前となりました。

6年間というとても濃密な学生生活を振り返ると、あっという間に感じます。

この6年間で特に印象に残っているのは、部活動と臨床実習です。

私は大学1年生から3年生まで五十嵐キャンパスの吹奏楽部に所属していました。毎年の夏のコンクールに向けて部員一同で切磋琢磨し、意見を交わし、時にはぶつかり合い、より良い演奏を探究しました。また、冬の定期演奏会では、お客様を満足してもらえるような演奏に演出を加え、感動を与えるステージを実現できたと感じました。

特に印象に残っているのは、介護施設での訪問演奏会です。

高齢者が毎年楽しみにしている演奏会で、客層にあった歌謡などの吹奏楽アレンジ曲を小編成で演奏しました。目前でお客様にとっても喜んでもらい、涙ぐむ人もいて演奏のやりがいを感じました。

こうして繋がった仲間達は、私の人生にとってもかけがえのない存在となりました。

また、臨床実習ではこれまでの歯学部生活を凝縮したようなあっという間の1年でした。一口腔単位での治療方針を決定し、患者様と相談しながら治療を進めるという、実際の臨床での歯科診療を体験できました。特に治療計画の立案では教科書的に学んだこと以上に臨床での症例は難しく、悩み考えることも多くありました。しかし、各診療科のライターの先生をはじめとした主治医や指導にあたってくれた先生方とのディスカッションで見方や考え方が変わり、多角的な方面から捉え

る力が身につけてきたと実感しました。

専門診療科での外来見学でも、一つ一つの医療行為の細かいテクニックや知識を目の当たりにし、歯科医療の奥深さを知りました。それぞれの医療行為にきちんとした根拠があり、それに基づいて診療を行っていることが実感できました。

こうして臨床実習を振り返ると、この1年で歯科医師として必要な技術や知識、考え方も大幅に成長できたと感じます。学生の臨床実習に協力してくださる患者様や各診療科の先生方、大学や病院のスタッフの方々のおかげで、こうして臨床実習を最後までやり遂げることができたのだと思います。

まだ歯科医師となるには足りないくらい未熟ですが、この6年間色々な場面で多くの人の支えがあったからこそ、こうして卒業できるのだと思います。ここで培われた力を糧に、さらに自己研鑽に努めていきたいと思います。改めてこの大学生活で携わってくださった皆さまに深く感謝し、今後の歯科医療に貢献できるよう、努力して参ります。



臨床実習を共にした友人
撮影時のみマスクを外しました

卒業生から

歯学科6年 霧 利 宗

この度、歯学部ニュースを執筆させていただきます。現在11月ですが、国試勉強の合間の息抜きに書かせていただきますので、どうぞお気軽にお付き合いください。

2017年の4月より、此処新潟で暮らすようになって早6年、福岡出身の私にとってこれまでの日々はとても新鮮で思い出深いものになりました。新潟の街の雰囲気や人々、美味しい食事、冬の雪景色、そのどれもが刺激的で、たくさんの思い出が昨日のこのように思い出されます。新潟に残れないのは残念ですが、また何度でも訪れたいと思います。

前置きが長くなりましたが、本学入学から臨床実習を終え、国家試験間近という現状の私を感じたことを書き連ねていこうと思います。

1年生の間は、2年生以降に比べてかなり自由に過ごしていたことを覚えています。総合大学ならではのということもあり歯学科以外の学生と交流したり、時間に余裕があったので複数のアルバイトを掛け持ち、「見聞を広める」ということを意識しておりました。6年になった今でも、その時に知り合った方々と連絡はとり合っていて、最近だと面接試験などの相談で特にお世話になりました。またアルバイトについても、相手のニーズを理解してそれに応えるということや、わからないことに対する取り組み方を知り、その経験は特に

臨床実習で活きたので、やっていたよかったなと思えました。

2年生以降は、専門的な学習が始まり、最初の方は勉強についていくのがかなり大変だった思い出があります。6年生になって気づきましたが、学生と先生方との距離は案外近いもので、講義でわからないことについて、もっと早く相談しに行けば、理解に苦しむこともなかったのかなと、少し後悔はあります。

5年次後期からの臨床実習は、専門的な内容はもちろんのこと、あらゆる面で学びが多い一年となりました。一つの組織として働くアルバイトとは異なり、各科の先生方はもちろん、その他多くの方々が勤務なさっている大きな組織の中で、歯科医師としての経験を積むことができたのはとても有意義なものでした。最初のうちは失敗ばかりでしたが、周りの方々に支えていただき、組織で働くということを肌で実感しました。ほとんど初めてのことばかりだったので、最初は失敗も多く、本当につらいことばかりでしたが、この一年を振り返ってみると、研修医になる前に数多くの失敗を経験できて良かったなと今では思います。また、患者さんへの処置を担当させていただけるため、教科書を読むだけよりも、いっそう主体的に物事を考えることができ、実際に目で見て診査することで、理解も深まりました。この一年で学んだことは、今後必ず活かしていきます。

最後になりますが、この6年間、ご指導いただきました先生方、同期のみなさん、支えてくださった沢山の方々に深く御礼申し上げます。

卒業にあたり

歯学科6年 中田晴香

本大学を卒業するにあたり、6年間を振り返ると、様々な出来事が思い出されます。このような執筆の機会を賜りましたので、深く印象に残った実習について書かせていただこうと思います。

3年生の後半から模型実習が始まりましたが、不器用な私はかなり苦戦しました。自身の至らなさに落胆し、歯科医師を志したことを後悔した日もありました。

実習に前向きに取り組むことができるようになったきっかけは、5年生から始まった臨床実習でした。今までの実習と異なり、治療技術の向上だけでなく、患者さんとの関わりのなかで、基礎と臨床を結び付け治療方針の妥当性を検討し、明快な言葉で説明するための知識、態度が総合的に求められました。

患者さんは優しく、長時間の診療後も笑顔でお礼を言ってくださいました。そんな患者さんに対して、良い補綴装置を製作し喜んでいただきたいという思いが強くなるほど、恐れや後ろ向きな気持ちが減弱していくことを感じました。練習や技工操作で行き詰りそうな時も、患者さんの顔を思い浮かべれば頑張ることができました。医療を通して人の役に立ちたいという気持ちが、活力となることを実感した瞬間でした。

最初は不安で長く思えた1年間の臨床実習は、目の前の治療に追われるうちにあっという間に終了しました。在学中に患者さんに関わり治療する機会をいただけたことは、今後にも生きるかけがえのない経験となったと感じています。お忙しいなか、ご指導くださった先生方に深く感謝を申し上げます。診療中、診療時間外問わず丁寧にご指導くださった先生方から、知識に加えて医療従事

者としてのあるべき姿も学びました。新型コロナウイルスの感染拡大が止まらぬ状況で、様々な制限がありながらも実習継続に尽力してくださった先生方のサポートがあり、無事に臨床実習を終えることができました。

重ねて、同期にも感謝の気持ちを伝えたいです。6年という長い期間、苦楽を沢山共有しました。同期の皆がいたからこそ、挫けそうな場面も乗り切ることができました。辛いときに寄り添い、背中を押してくれた同級生の存在は、卒業後も変わらず自分を支え、鼓舞する存在となり続けると実感しています。

学生生活の全てが貴重な経験となりました。上達の喜びと、できない悔しさの両方を忘れずに、卒業後も精進します。

最後になりますが、卒業と同時に歯科医療のスタートラインに立つ私たちを、引き続き応援していただけますと嬉しいかぎりです。



クラスメートと撮影
撮影時のみマスクを外しました

暖かい春を待ち侘びて

歯学科6年 恩田 咲良

「卒業生から」というテーマで約5年ぶりに歯学部ニュースの執筆依頼をお受けしました。5年前の執筆内容は「入学者のことば」。こうしてみるとあっという間だったのだと感じています。過去の歯学部ニュースを片手に6年間を振り返ってみると、勉学、部活動、飲み会等様々な思い出がよみがえってきます。隣人のどんちゃん騒ぎに耐えながらテスト勉強に勤しんだ2年の夏、オールデンタルで団体戦優勝を飾った3年の夏、日本酒が美味しいあまりに実家につぶれた6年の夏、一部忘れたいこともあります。しかしそれなりに楽しい大学生活を味わえたと思います。しかし私含めほとんどの6年生は「臨床実習」が思い出の大部分を占めているのではないのでしょうか。そしてその思い出の写真にはマスク姿の自分が多く写っていることと思います。大学時代の半分が新型コロナウイルスとともにあった私たちは、当然ながら臨床実習も影響を受け、様々な制限下での実習を余儀なくされました。診療を延期せざるを得ないこともあり、不安を覚えることもありました。しかしそのような中いかに充実した実習となるか熟考し

てくださった先生方や、嬉しいことも悲しいことも共に経験し、一緒に乗り越えてくれた6年生、すでに社会で活躍している口腔生命福祉学科の同級生のみなさん、そして一年間こんな私を信じて担当させてくださった患者さん方のおかげで今後の糧となる貴重な一年間を過ごすことができました。特に印象深かったことは、5年生への引継ぎの際涙目になりながら別れを惜しんでくださった患者さんがいらっしまったことです。患者さん一人一人の口腔内に対して、患者さんの情報を元に問題点を列挙し、グループで話し合って治療計画を立てるといったことは講義の一貫で経験したことはありますが、その結果患者さんがどう感じてくださるのかを体感できたことが臨床実習の醍醐味なのではないかと感じました。みなさん、本当にありがとうございました。

そして今は国家試験の勉強に勤しんでいます。幸いにも現在の隣人は静かな方のように家でも集中できそうです。数か月後、全員で国試に合格し、期待に胸を膨らませる研修生の春、という思い出がまた増えますようにと願いながら最後まで気を抜かずに過ごしていきたいと思います。まずはみなさん体調には気を付けて、一緒に頑張りましょう！！



頼もしい同級生との一枚

卒業にあたり

口腔生命福祉学科4年 池 遥 華

この4年間を振り返ると、様々なことを知り、たくさんの新しいことを経験できた、とても貴重な時間であったと感じています。

私は田舎育ちであり、入学当初は電車に乗るのも、バスでSuicaをピットするのもワクワクしていたことを思い出します。2年次からは旭町キャンパス周辺へ引っ越し、徒歩圏内にコンビニ、古町、万代、和菓子屋さん、かき氷屋さんなどなんでもある土地へ住むことができ、小、中、高時代では考えられないような生活を経験することができました。時間を見つけては色々な所へ付き合ってくれた友達には感謝しています。また、部活動では管弦楽団に入部しチェロを始めました。ピアノしか経験がなくチェロは全くの初心者でしたが、先輩方に教えていただきながら練習し、小学生の頃からの夢だったオーケストラでの演奏を経験することが出来てとても嬉しく思っています。

そして、学生の本業である学業についてです。入学時は福祉にはあまり興味がありませんでしたが、実家が福祉サービスを利用するようになったこともあり、福祉の授業も興味を持って聞くことができました。いつ誰が利用するようになっても

おかしくない、福祉サービスについての知識や、福祉実習を通して実感した福祉に携わる人の優しさなどを学ぶことが出来、とても価値ある学びになりました。歯科については、一番印象に残っているのは臨床実習です。自分が術者となり処置を行ったり、診療補助を行ったりしましたが、自分の知識や技術が足りず、患者さんや先生にご迷惑をおかけすることもありました。毎日の実習を通して少しずつ成長することができましたが、それは病院の先生方や衛生士さん、口腔生命福祉学科の先生方や同期の皆さんなどたくさんの方の支えがあったからです。お世話になった全ての方に、この場を借りて感謝申し上げます。

歯科に福祉にと忙しい日々でしたが、2分野の知識を学べたことはどちらの道へ進んだとしても強みとなると感じています。ここで学んだことを活かして、社会に貢献できる社会人になれるよう頑張っていきたいです。



実習最終日に 撮影時のみマスクを外しました



筆者：中央右 部活の同回生と 撮影時のみマスクを外しました

卒業にあたり

口腔生命福祉学科 4年 吉村実玖

口腔生命福祉学科に入学して4年目となり、あっという間に卒業の年を迎えました。この1年は、臨床実習、福祉実習、特論、就活、歯科衛生士と社会福祉士の国家試験があり、毎日があっという間に過ぎていきました。

臨床実習では、思うように診療補助を行うことができない日々が続き、自分の知識・技術の不足を痛感させられました。しかし、同じように頑張っている口腔16期生のみんなのおかげでここまで実習を乗り越えられたと思います。最近では、患者さんにPMTCをさせていただいたときに「ありがとう！頑張ってるね！」などと声をかけていただき、とてもやりがいを感じる事ができました。臨床実習で得ることができた経験を今後活かしていきたいです。

福祉実習では、私は障がい者の方に対して相談支援を行う事業所で実習をさせていただきました



口腔16期：臨床実習終了日に撮影
撮影時のみマスクを外しています



弓道部：2021年度夏季学部戦
撮影時のみマスクを外しています

た。座学の講義を受けただけではあいまいだった障害福祉サービスを、実習を通して実際に見学させていただいたことで、しっかり知識として理解することができました。利用者さんとも沢山交流することができ、とても良い経験をさせていただいたと感じています。

そして、私が所属していた弓道部についてです。新型コロナウイルスの流行により、多くの大会が無くなりました。しかし、部活を通してたくさんの仲間に出会うことができました。歯学部だけでなく、保健学科の弓道部と一緒に練習していたため、他学部の仲間にも会うことができました。

4年間、様々なことがありましたが、入学して一番良かったと思うことは、沢山の仲間に出会えたことです。充実した大学生活を送ることができたのは、口腔16期の同期のみなさん、部活動の仲間のおかげだと思っています。ありがとうございました。大学生活で得られた経験を活かし、自分の理想とする歯科衛生士像に近づけるよう日々精進してまいります。

令和4年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻博士課程修了者論文名

博士の専攻分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	SUEBSAMARN ORAKARN （口腔生命科学）	In-process monitoring of a tissue-engineered oral mucosa fabricated on a micropatterned collagen scaffold: Use of optical coherence tomography for quality control （マイクロパターン化コラーゲン足場材で作製した培養口腔粘膜のインプロセスモニタリング：品質管理のための光干渉断層撮影の使用）
博士（歯学）	KULVANICH SIRIMA （口腔生命科学）	Impact of Oral and Swallowing Function on the Feeding Status of Older Adults in Nursing Homes （施設入所高齢者の口腔と嚥下機能が食事状況にもたらす影響）
博士（歯学）	SUZUKI BARRERA KİYOKO NÉLIDA （口腔生命科学）	Role of osteopontin in the process of pulpal healing following tooth replantation in mice （マウス歯の再植後の歯髄治癒過程におけるオステオポンチンの役割）

